

価格改定

病院向け価格を大幅に改定し、より導入しやすくなりました

新登場

イントラネット版

まずは \ **無料** / でトライアル!

施設でのトライアルについては今日の治療薬WEBのHPをご確認ください

1分でカンタン登録!



施設向け 薬剤情報検索サービス

今日の治療薬

WEB版/イントラネット版

NEW

【Wアクセス版(WEB版+イントラネット版)】

アクセス無制限で施設全員が使える!

パソコン

スマホ

タブレット

電子カルテ

等に対応!



書籍の内容はそのままに

日々の業務に役立つ

WEBサービスができました



大好評!

同効薬を一画面で比較! 薬剤比較機能!

薬剤名	●ザジテン	●アゼアテン	●オキサミド
薬名	ザジテン	アゼアテン	オキサミド
薬名	ザジテン	アゼアテン	オキサミド
一般名	ネトラフェンゾール塩酸塩	アゼラスチン塩酸塩	オキサミド
会社名	サンファーマ	エービー	森田
薬価	カプセル 10.60 @4.90 シロップ 13.80/mLDS 13.80/g 6.90	1mg錠 19.90 @5.90...	30mg錠 5.90 20錠 6.80 30mg錠 5.90 (CZ) ...
組成・剤形・容量	カプセル: 1mg シロップ: 0.02% (0.2mg/mL) ドライシロップ (DS): 0.1% (1mg/g) (イチ)	錠: 0.5mg, 1mg	錠: 30mg シロップ (小児用): 0.2% (2mg/mL) (イチ) ドライシロップ (DS) (小児用): 2% (20mg/g)

●アレジオン		薬価
分類	アレルギー疾患治療薬	一般名 エピナスチン塩酸塩
ヒスタミン拮抗薬 (受容体拮抗薬 第二世代)	一般名 epinastine hydrochloride	会社名 ベーリンガー
組成・剤形・容量	錠 20mg錠 38.00 @17.10 ~ 24.10 ...	薬価
ドライシロップ (DS): 1% (10mg/g) (ヨーグルト)		

添付文書には載っていない

▶ 妊婦や授乳婦へのリスク分類 ▶ 腎機能低下・透析時の投与量 ▶ 小児への用法用量 を掲載

添付文書“外”情報も掲載!

最大20単位!

NEW!

ためとこ

で「今日の治療薬」(WEB/アプリ/書籍)の確認テストを受検すると研修認定薬剤師の単位が取得できます



アクセス無制限で
施設全員が使える!

パソコン

スマホ

タブレット

電子カルテ

等に対応!

Wアクセス版

WEB版

イントラネット版

パソコン

タブレット

スマートフォン

電子カルテ端末

レセコン

診察室でも

在宅医療でも

自宅での学習でも

電カル端末でも

医療事務の方も



今日の治療薬
WEB

6つの機能

医療現場の業務効率化に貢献

1

薬剤検索



2

解説



3

薬剤比較



4

併用禁忌



5

メモ



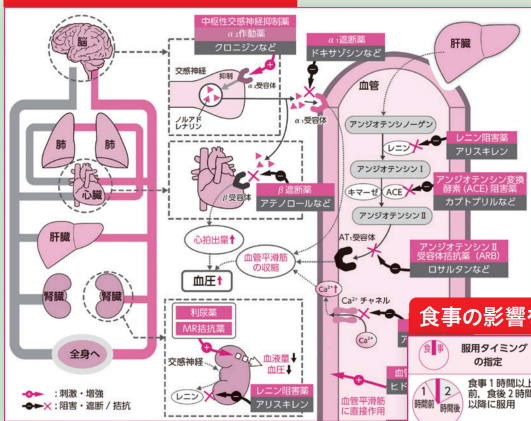
6

識別コード



60領域の最新情報を 豊富な図表で

図で見る薬理作用：降圧薬



食事の影響を受ける主な薬剤 抗悪性腫瘍薬

服用タイミングの指定	一般名	理由		起こりうる不利益
		食後 Cmax	食後 AUC	
① 食前1時間以上前、食後2時間以降に服用	エルロチニブ p250	—	(高)2倍	副作用増強
② 空腹時に投与(食前1時間～食後2時間は避ける)	カボザチニブ p264	41%増加	57%増加	副作用増強
	チラロチニブ p268	1.74倍	1.29倍	副作用増強
	ニロチニブ p265	1.55倍	1.32倍	副作用増強
	パノパニブ p263	—	(高)2.3倍**	副作用増強
③ 高脂肪食摂取時には食前1時間～食後2時間は避ける	グマロンチニブ p256	(高)1.95倍	(高)2.36倍	副作用増強
	アピラテロン p212	12倍	7.5倍	副作用増強
	イクサゾミブ p273	(高)69%減少	(高)28%減少	効果低下
④ 高脂肪食摂取時には食前1時間～食後2時間は避ける	ダブラフェニブ p248	(高)51%減少**	(高)31%減少**	効果低下
	トラメチニブ p254	(高)70%減少**	(高)10%減少**	効果低下
⑤	ソラフェニブ p262	—	(中)14%増加 (高)28%減少	副作用増強/効果低下

主な骨粗鬆症治療薬の作用機序と特徴

分類	作用機序	特徴	副作用・使用上の注意
カルシトニン製剤	破骨細胞に直接作用し、骨吸収を抑制する。	・BP 製剤などに比べ骨密度増加効果は少ないが、セロトニン神経系を介した鎮痛作用がある。 ・骨粗鬆症による疼痛に有効あり。	・顔面潮紅、吐き気、発疹、麻疹、注射部位反応を生じることがある。稀にショックやアナフィラキシーを生じることがある。
ビスホスホネート(BP)製剤	破骨細胞の活性化及び生存を抑制することにより骨吸収を抑制する。	・優れた骨密度増加効果と骨折予防効果が示され、多くの国で第一選択薬とされている。 ・内服薬は腸管吸収が不良。 ・月1回や年1回の静注製剤もあり、嚥下障害や認知症患者にも使いやすい。	・副作用として顎骨壊死や非定型大腿骨骨折があるが、頻度は極めて低い。顎骨壊死予防には歯科連携が重要。 ・静注製剤や静注投与と経口剤では投与後に発熱や筋・関節痛など急性反応を生じることがある。
活性型ビタミンD ₃ 製剤	腸管からのCa ²⁺ 吸収を促進し、副甲状腺ホルモン生成、分泌を抑制する。	・アルファカルシドール：肝臓でカルシトリンに変換される。 ・エルデカルシトール：カルシトリンよりも半減期が長く、骨吸収を抑制する。アルファカルシドールより骨密度上昇、新規椎体骨折・横骨過位端骨折抑制効果が高い。	・高Ca血症に注意が必要。 ・尿中Caを増加させることで尿路結石や腎機能低下を生じることがある。
女性ホルモン製剤	破骨細胞に作用し、骨吸収を抑制するとともにアポトーシスを誘導する。	・わが国で用いない。	・ほろけのぼけ(ホットフラッシュ)。

主な肝疾患治療薬の特徴と副作用など

特徴	副作用とその予防・対策
<p>インターフェロン製剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然型α、β、遺伝子組換えのα-2a、に分類される。 ・化学修飾して体内持続時間の長いPEG-IFNがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IFN単独：うつ症状は約30%にみられ、自覚の危険を伴うことから投与前後2週間に精神状態を評価する。副作用時呼吸困難、咳嗽、発熱がみられれば精神状態に注意する。 ・PEG-IFN：従来型IFNに比べて、重症症、注射部位の赤腫、血小板や好中球の減少がやや多い。
<p>抗肝炎ウイルス薬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C型肝炎ウイルス(HCV)治療に重要な役割をもつHCV蛋白を直接的に阻害する直接作用型抗ウイルス薬(DAA製剤)が主。 ・NS3/4Aプロテアーゼ阻害薬、NS5A阻害薬、NS5Bポリメラーゼ阻害薬などがある(図1)。 ・B型肝炎ウイルス(HBV)に対する核酸アナログ製剤はウイルス増殖を抑制する効果をもち、肝炎や肝硬変の進行を抑制するが、ウイルスの排除はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リバビリン：主な副作用は溶血性貧血であり、貧血や心疾患患者では適応を慎重に検討する。腎障害のため腎障害患者では慎重に投与する。透析中の腎不全患者には原則禁忌である。染色体異常の懸念があり、妊娠・授乳中の女性患者には禁忌である。また、パートナーが妊娠する可能性がある男性患者に投与する場合、避妊を指示する。
<p>肝機能検査値の改善を期待して投与するが、ウイルスに対する直接効果はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリチルリチン製剤：経口剤(グリチルチン)の効果は注射剤(強力ネオミファージン)に比べて劣る。 ・ウルソデオキシコール酸：胆石や原発性胆汁性胆管炎(PBC)、自己免疫性肝炎(AIH)、原発性胆汁性胆管炎などに用いる。ウイルス性肝炎治療困難例、不応例にも使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリチルリチン製剤：高血圧、浮腫、低K血症などの副作用が報告されている。



薬剤検索

充実の薬剤情報

薬剤の詳細画面では、適応・用量、禁忌、相互作用などを一覧で表示。さらに製剤写真や薬価、添付文書やIFもすぐに表示できます。

添付文書には載っていない情報も充実!

▶ 妊婦(胎児)、授乳婦(児)への危険度

- ・豪州ADEC基準
- ・「Briggs Drugs in Pregnancy & Lactation, 12th ed.」基準
- ・「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」
- ・「Hale's Medications and Mothers' Milk 2025-2026」

▶ 腎機能低下・透析時の投与量

- ・日本腎臓病薬物療法学会「腎機能別薬剤投与量一覧」

▶ 小児への用法用量

- ・「The Harriet Lane Handbook 22nd Ed.」
- ・「Nelson's Pediatric Antimicrobial Therapy 29th Ed.」
- ・「新小児薬用量(第10版)」



メモ

重要情報を院内、調剤グループ内に共有できる!



併用禁忌

併用禁忌をかたんにチェック

複数の薬剤を併用する場合の、併用禁忌に該当する組み合わせをすばやく確認できます。



識別コード

在宅医療で活躍! 一包化された薬剤の確認に!



薬剤比較

同効薬や選んだ薬剤を一画面で比較できる

任意の薬剤の薬価や適応症などを、一覧で簡単に比較することができます。

価格改定

病院向け価格を大幅に改定し、
より導入しやすくなりました

新登場

イントラネット版

今日の治療薬WEB 今日の治療薬イントラネット版

【Wアクセス版(WEB版+イントラネット版)】

価格(年間/税抜)

■ 診療所 (0~9床)	9,600円
(10~19床)	15,000円
■ 薬局	9,600円
※店舗数により割引がございます	
■ 病院	30,000円~



価格の詳細は
次のページを
ご確認ください。

—WEB版とイントラネット版は同じ価格です—

※Wアクセス版(WEB版+イントラネット版)は単体価格の約110%です

※ご契約は施設単位のみです。個人や診療科単位での契約はできません。
※同時アクセス無制限です。サービスのご利用はご契約施設に所属する方のみとなります。
※代理店を通じてのお申し込みとなります。代理店一覧、お申し込み方法は「今日の治療薬WEB」のHPでご確認ください。

最新の臨床WEBと

同時申込の場合は、両サービスの合計より

約10%割引 での販売となります。

※10%割引の対象は「病院」のみです

WEB版

サービスの特長

1



病院規模に応じた料金体系

病院規模(病床数)に応じたプランで導入が可能です。
個人アカウントも作成できます。

2



認証方式の選択が可能

固定IPアドレスによる認証方式に加え、ID・パスワードによる認証にも対応しています。固定IPアドレスをもたない病院でも、本サービスの導入が可能です。

3



院外からも利用が可能

パソコン・タブレット・スマートフォンに対応しています。
契約施設の職員等であれば、院外からも利用できます。
訪問診療や自己学習、研究等の用途に役立ちます。

4



薬剤情報を定期的に更新*

「今日の治療薬WEB」の薬剤情報データベースは、新薬、薬価、経過措置などの情報について、年数回の更新がございます。

イントラネット版

サービスの特長

1



電子カルテ端末・レセプト端末から、すぐにアクセス

施設内LANのサーバーにインストールするだけで、各端末のWebブラウザから簡単にご利用いただけます。
電子カルテ端末やレセプト端末など、インターネットに接続されていない院内ネットワークでも利用可能です。

2



施設内のどこからでも、だれでも使える

施設内LANに接続された端末であれば、院内のどこからでもアクセス可能です。ID・パスワードの入力も不要で、スムーズにご利用いただけます。

- 同時アクセス無制限です。ご契約施設内の全員がご利用いただけます。
- 年に複数回の更新予定です。

利用環境・動作環境

施設内のLAN(イントラネット)環境上の端末でご利用いただけます。サーバーに「今日の治療薬イントラネット版」のインストールが必要です。

【サーバーおよびネットワーク環境】

Windows 11/10 に対応したコンピュータ(Windows Server 2022/2019 などの Server OS の利用を推奨)で動作します。
※Microsoft のメディア作成ツールを用いて導入された Windows 10 環境については、動作確認の対象外となります。
※本サービスを安定してご利用いただくため、サーバーやネットワークの負荷が、他のアプリケーション等で過度にかかっていない環境を前提としています。

- ・ストレージ空き容量: 3GB 以上
- ・メインメモリ容量: 4GB 以上 (8GB 以上を推奨)

【クライアント端末について】

以下の環境でご利用いただけます

Webブラウザ: Microsoft Edge, Google Chrome, Firefox, Safari (macOS)

モバイルデバイス (推奨環境)

・iOS 15 以降: Safari

・Android 12 以降: Google Chrome

※モバイルデバイスをご利用の際は、OS を最新バージョンに更新した状態での使用を推奨します。

※施設内ネットワークのセキュリティ設定内容によっては、正常にご利用いただけない場合があります。

※安定したLAN接続環境でのご利用が必要です。

※薬剤情報更新の方針

本サービスに収録している薬剤情報については書籍『今日の治療薬』最新版に準拠しており、下記方針にて追加・更新を予定しています。

- ・薬剤画像、添付文書・インタビューフォームリンクは毎月更新します (WEB版のみ)。
- ・1年に複数回、製造販売承認が与えられた新薬情報の追加ならびに既存薬情報の更新を行います。
- ・薬価改定に伴う薬価更新は基本的に毎年4月に行います (新薬の薬価は収載後1~2か月で都度反映します)。
- ・毎年2~4月に書籍『今日の治療薬』最新版の改訂内容 (解説、添付文書外情報を含む薬剤情報) を反映します。
- ・サービス開発の都合上、上記時期は目安となります。あらかじめご了承ください。

●代理店



株式
会社

南江堂

〒113-8410 東京都文京区本郷3-42-6 営業: TEL 03-3811-7484 nkd.denpan@nankodo.co.jp